

(仮称) 森の文化博物館民間活力導入可能性調査及び 結果概要について

1 調査の目的

(仮称) 森の文化博物館の拠点施設では、従来の博物館業務に加えて、地域資源のガイダンス、体験事業、宿泊事業等を想定しており、これらの運営については民間事業者のノウハウを活用することも検討しています。このため、前提条件等の整理を行うとともに、マーケットサウンディングによって事業提案や事業手法を聞き取ることで、運営事業者公募における条件設定等の参考とするために調査を行いました。

2 基本計画に基づく機能整理

調査においては、(仮称) 森の文化博物館基本計画の内容から活動と機能を分類し、民間事業者のノウハウを活用したいものとして「学習・体験機能」、「人づくりと新たな森の文化の創造機能」、「宿泊機能」の3つを抽出した上で、マーケットサウンディングを行いました。

3 マーケットサウンディングに係るスケジュール

日 程	内 容
令和6年11月18日(月)	サウンディング実施要領公表
令和6年11月18日(月)～26日(火)12時まで	現地見学会、オンライン説明会の申込受付
令和6年11月27日(水)	現地見学会開催
令和6年11月28日(木)	オンライン説明会開催
令和6年11月18日(月)～29日(金)12時まで	参加申請書等の受付
令和6年12月2日(月)10時～13日(金)12時まで	意見書の受付
令和6年12月16日(月)～25日(水)	個別ヒアリング
令和7年2月28日(金)	調査成果とりまとめ

4 マーケットサウンディング参加者について

(1) 参加者数

計4者

(2) サウンディングに参加した事業者の関心度合い

強い関心がある…1者、ある程度関心がある…3者

5 主な意見

(1) 学習・体験機能

- フィールドミュージアムとしての位置付けから地域資源の普及啓発等を実施できる事業が望ましい。
- エコツーリズムの観点から通年稼働できる事業展開が必要では。
- 冬季休業を行うことがある場合は、市内他施設への出張事業などの連携プログラム構築が必要では。

(2) 人づくりと新たな森の文化創造機能

- 人づくりは必須事業として、採算目的としない位置付けが必要では。
- 地元団体との連携・調整機能を構築することが必要では。
- 関係交流人口の拡大を目指した事業ビジョンを設定してはどうか。
- 様々な就労形態（リゾートバイト、おてつたび、ワーキングホリデーなど）を設けて求人メニューを提示することが望ましい。

(3) 宿泊機能

- 一般利用を想定する場合、利用者が実感できるブランディングが必要では。
- 若年層の宿泊研修を想定する場合、大人数が同時利用できる整備（水光熱設備、Wi-Fi等の通信環境、水回りの整備）を実施してはどうか。
- 森林等の自然資源をいかしたプログラムを実施し、集客力を高めてはどうか。
- 中長期的な滞在も可能とする（レジデンス機能）ことにより、次世代の担い手育成などに寄与する可能性があることが望ましい。

(4) 民間活力を導入する場合

- 市の政策目標を実現する観点からは、いずれの機能も必須事業として市がサービス対価を支払うことが望ましい。
- 事業方式として施設の所有権を公共が有したまま、運営権を民間事業者に設定するコンセッション方式を採用する場合は、運営権対価を無償とすることが望ましい。また、指定管理者制度を採用する場合は、事業期間の長期化や料金設定の柔軟な対応について検討が必要では。
- 新規整備の場合、事業期間15年を基本として検討が必要では。
- 冬季休業を行うことがある場合は、実務上の対応方法をさらに検討する必要があるとともに、機動的な対応が可能な地元事業者が参画しやすい条件設定等を検討してはどうか。